

出題分析		
試験時間 80 分	配点 125 点*	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕
【概評】 今年の神戸大学の後期の英語は、長文読解 3 題と、大問IVで和文英訳 1 つ、自由英作 1 つ、という大問 4 つの構成であった。長文読解は、設問種別も例年通りで、空所補充選択や同義語句選択、記述式の下線部和訳・内容説明などが出題されている。前期よりも記述問題が少ない分、若干取り組みやすいかもしれないが、正確な解答を作成しようとする、手ごわい問題であった。		

※学部により異なる。詳細は募集要項参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「集中力にまつわる 脳の仕組み」 ○語数：599 語 (昨年) 621 語	脳の能力と言え、とりわけ記憶力や情報処理力の話になりがちだが、実際にはその機能をどう調整するかが重要だということを研究に基づいて述べた文章。内容自体は専門用語なども出てくるため読みにくい箇所はあるが、要点をしっかりと押さえられていれば問題には答えられるだろう。問 1 の和訳では“最上級+yet”「今までで最も～」が問われた。問 4 の内容説明は語数指定がないため、過不足なくまとめるのに苦慮したかもしれない。	標準
II	長文読解 「動物の遊びについて」 ○語数：599 語 (昨年) 693 語	これまであまり研究が進んでこなかった動物の「遊び」について、人間における「遊び」と対比しつつその役割の仮説について述べた文章。問 1 の和訳は意味がわかっても日本語で表しにくい内容。直訳ではなく説明的に表現すると意味が伝わりやすい。問 2 の同義選択の (a) と (d) は特に文脈から考える必要がある。(b) little more than ~ は no more than ~ 「～にすぎない」とほとんど同じ意味。(c) at work 「機能している」。問 4 の和訳は prevent を状況に合わせて訳すことが重要。one は an obvious benefit のこと。	標準

設問別講評			
III	長文読解 「ホットドッグを食べる話」 ○語数：687 語 (昨年) 763 語	ある男が匂いに惹かれてホットドッグの調理場に入りホットドッグを注文して食べたのだが、お金がなくて支払いができなかったという話。問3の He was the last of the musicians. 「彼は最後の音楽家だった。」は、直前の文からスカルラッティを称賛する言葉だとわかる。問4の “My,” は間投詞で驚きや感嘆を表す。	標準
IV	和文英訳 「本当の読書とは」 自由英作 「読書の意義」	問1の和文「どう受けとめるか」は「それについてどう考えるか」と置き換えるとよい。「…できて、初めて～」は only ~ when … などとして表せる。問2は「読書の意義」について自分の考えをまとめる自由英作。解答例では、「読書を通してしか味わえない経験ができる」とし、「旅行記を読むことで自分が現実では行けない場所を訪れることができる」と具体例を挙げた。	標準

設問構成（設問数・形式・内容）												
大問番号	設問数	選択式					記述式					
		空所補充	同義選択	内容把握	内容一致	その他	和訳	内容(理由)説明	指示語指摘	英訳	自由英作	その他
I	4		4	2			1	1				
II	4	1	4				2					
III	5		1・1	1	6	3						
IV	2									1	1	

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。

合格のための学習法
<p>本格的な記述問題を備えた読解・英作文を出題する神戸大学の英語入試で合格点をとるには小手先のテクニックに頼っていてはだめだ。まず1学期の早い時期に体系的な基本文法を理解しながら身につけよう。そしてそれと同時に、辞書を引きながらじっくり英文を読み、書く訓練を始めなければならない。辞書が使えなければ英語の力を伸ばすのは難しい。その際に重要なのはゆっくり時間をかけて勉強することである。決して速読練習などをしてはならない。速さよりも正確さ、量よりも質である。ゆっくりでも正確に読めるようになれば、スピードや量は後からついてくる。また毎日こつこつ単語帳・熟語帳をやることも忘れずに。日々の地道な努力に楽しみを見いだせる人間こそが、栄冠を勝ち取ることができる。</p>